

R1年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (NIHOアルテ) 作成日時 (令和 1 年 9 月 25 日)

代表	施設長	本部
印		

R1年度 改善への取り組み	視覚的構造化の見直し・情報共有の方法の見直し
今年度の施設目標	児童・保護者・支援者にとっての「わかりやすさ」の実現

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	・活動スペースについて、十分な活動スペースが確保されているかとなるとどちらともいえない	・玄関前に向かう際、階段になっている部分の向きが不適切との意見を保護者からいただいたが、施設側は着眼していなかった。 ・脱走防止の施策として鍵を増設したが、玄関の施錠対策がまだ必要なのではとの意見が出た。
業務改善	・職員の資質向上のために研修へ積極的に参加している ・研修内容をスタッフ間で共有している ・パートを含めたスタッフ間で支援に関する報告が頻繁に行われPDCAサイクルに基づいた情報共有が行われている。	・保護者向け勉強会の開催希望あり。現在スタッフ育成が優先と考え、パートスタッフが主体となり一人の児童に対する支援会議を行い学びの場を設けている段階。
適切な支援の提供	・子どもや保護者のニーズを踏まえた支援計画が作成されている ・子どもの適応行動を図るための構造化や視覚的支援を行っている ・子どもの状況に合わせて活動を設定し支援している ・就業前後に打ち合わせを行い職員間で共有している	・児童クラブや児童館などの交流や、障がいのない子どもと活動する機会が少ないとの意見あり。児童館等の利用に関しては、子どもの状況に合わせて少人数で対応する必要があると考え積極的な利用は控えていた。 ・屋外活動の充実との意見あり。現在は運動目的の外出が主体となっている。商業施設の利用なども行っているが頻度は少ない。
関係機関や保護者との連携	・協議会などの意見交換の場に参加している。 ・父母の会の活動支援や保護者会の開催など保護者同士の連携が支援されていない	・学校とは必要に応じて送迎時に情報交換を行っているが、就労に関する情報収集が不十分である。 ・苦情の対応について「どちらともいえない」との意見が複数あり。苦情相談に対する対応方法（マニュアルは存在している）の周知と情報の共有を見直す。
保護者への説明責任等	・支援内容についてはお迎え時などで情報の共有を図っている ・子どもの状態に合わせた対応や保護者からなどの相談時には、状況に応じて情報伝達に対する配慮がされている ・保護者会の開催、保護者同士の連携の場が少ない	・保護者は様々イベントを開催することを望んでいるが、施設側は手間や規模の大きさを考慮するとイベントの場を作ることは難しいと考えていた。
非常時等の対応	・各種マニュアルの策定（見直し中も含めて） ・些細なことでも記録をし、業務日誌を通じてヒヤリハットを含めた情報の共有を行っている。 ・虐待防止のための取り組み	災害時の対応について保護者からは特に意見はなかったが、施設側として、非常災害のマニュアル、訓練内容等の詳細情報の提供を広報誌で行い始めたが継続されていない事や、自然災害以外の緊急時対応について周知が不十分であると感じた。



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> ・支援の向上にむけてPDCAサイクルに基づき適宜支援についての話し合いを行いスタッフ間で共有していこうという意識が強い。 ・保護者に対して子育てや支援に関する相談や助言などがしやすい雰囲気である。 ・個別と集団の活動のバランス、集団活動の中での個別対応などに配慮している。 ・支援の視点を子どものみならず、保護者への観点まで幅広くとらえる職員が多い。

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・個々にあった活動しやすい環境の設定が不十分なので、境界設定等再構造化をはかる。 ・子ども同士または保護者同士の交流の場、地域交流、他機関との連携の機会が少ないのでイベント等への参加や施設オリジナルのイベントを企画していく。※音楽イベントや映画鑑賞などの希望あり ・災害などの緊急時対応の詳細を周知させる仕組みを作る。 ※アルテだよりの号外として避難場所や避難経路、引き渡しの方法などの具体的な内容を順を追って掲載していく。（イラストを交えたわかりやすい形で作成） ・強みを活かすためスタッフミーティングの内容の見直しと伝達講習などの強化をはかる。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・ハチエイチやエシカファーム全体のイベントへの参加、または内容の告知。 ・境界を明確にする、個別活動スペースの確保、1対1エリアの見直し等、再構造化の具体化と実行。 ・職員の自閉症支援の技術の質の向上を目的としたスタッフミーティングの実施。（外部研修へ参加したスタッフによる伝達講習、コンサルへの参加、リタリコ研修動画の活用等） ・セコム導入（防犯カメラの設置）によるセキュリティの強化、不正侵入に対しては自動施錠で常に施錠状態しておくことを徹底、インターホンにて確認を行う。（保護者以外のお迎えは事前に申告。） 脱走防止のための施錠方法や設備の再検討を行うとともに不正侵入・脱走時の対応方法も検討していく。 ・誰もがわかりやすい形でのPDCAサイクルの実施のために全職員にタスクアセスメントの徹底を促し、チェックを都度行う。 ・アルテだよりの号外（隔月）として、普段の活動に加えその活動の目的や支援の方法、課題を行なう意味、災害時の避難対策等、わかりやすい形で伝えていく。

自己評価を行ったの事業所としての感想など
<p>前回の改善への取り組みを踏まえ、まずは基本に立ち返り一つ一つの課題を具体化し、考え直していく必要があると感じた。スタッフ育成の一環として伝達講習やパートスタッフ主体の支援会議などをスタッフミーティングにて実行しているが、スタッフによって温度差が生じてしまうため、それぞれの経験値と理解に合わせた対応も考慮していく必要があると感じる。保護者とのかわりについても、保護者様側と施設側の相違点を払拭し一層安心していただけるよう、普段の様子だけでなく様々な情報が共有できるよう、まずは施設側から発信すべき情報を整理し定期発行物等を有意義に使用し、具体的に伝えていけるようにしたい。</p>

来年度の施設目標	わかりやすさを実現するための取り組みの具体化 情報共有のための仕組みを実現する
----------	--